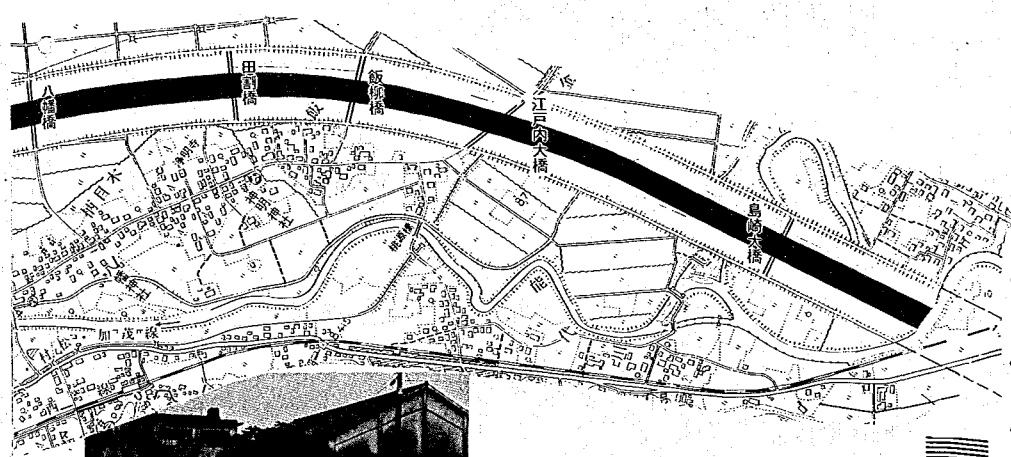
―新津の治水史に新たな一ページ―

分流通水へ秒読み

能代川分流に水が流れる日が近づきました。通水式は七月二十二日に予定されています。そこで広報では、今号と次号の二回にわたって能代川分流を取り上げます。今号は分流の概要、そして次号は関係者の皆さんのお話などを中心に組む予定です。



市街地も水びたしになった8・28水害(一小前)

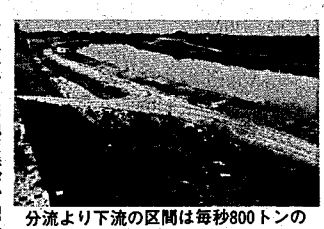
八・二八水害で分流計画浮上

能代川は村松町宝蔵山にその源を発し、五泉市から新津の市街地を流れ、荻島地内で小阿賀野川に合流する流域面積百四十一・四平方キロ、流路延長三十三・四キロの信濃川の支流です。新津の市街地の部分では、わずか三十メートルほどの川幅しかない所もあり、"無堤"の箇所もあります。また、俗に"九十九曲がり"といわれるほど屈曲が多く、加えて下流部には灌漑用水の堰が設けられていたこともあり、これがネックとなってたびたび洪水を引き起こしてきました。

能代川の改修工事は、昭和二十二年から中小河川改修事業として進められてきましたが、分流計画樹立のきっかけは、昭和四十一年、四十二年の連続水害です。なかでも四十二年の八・二八水害は、当市に戦後最大といわれる被害を与えました。一時間降雨量八十七ミリという記録を残したこの豪雨により、死者二名、負傷者九名、住家の全壊十三戸、同半壊二十六戸、床上浸水二千百七十四戸、床下浸水千八百八十一戸という惨状がもたらされたのです。

分流計画は、この未曾有の水害の反省から昭和四十三年にたてられました。そして四十五年から用地交渉が、四十八年からは工事も一部で着手(新町橋から)されましたが、用地買収の難航や、二度にわたるオイルショックで事業費が思うようにつかず、通水のメドが立たない時期がしばらく続いたのも事実です。

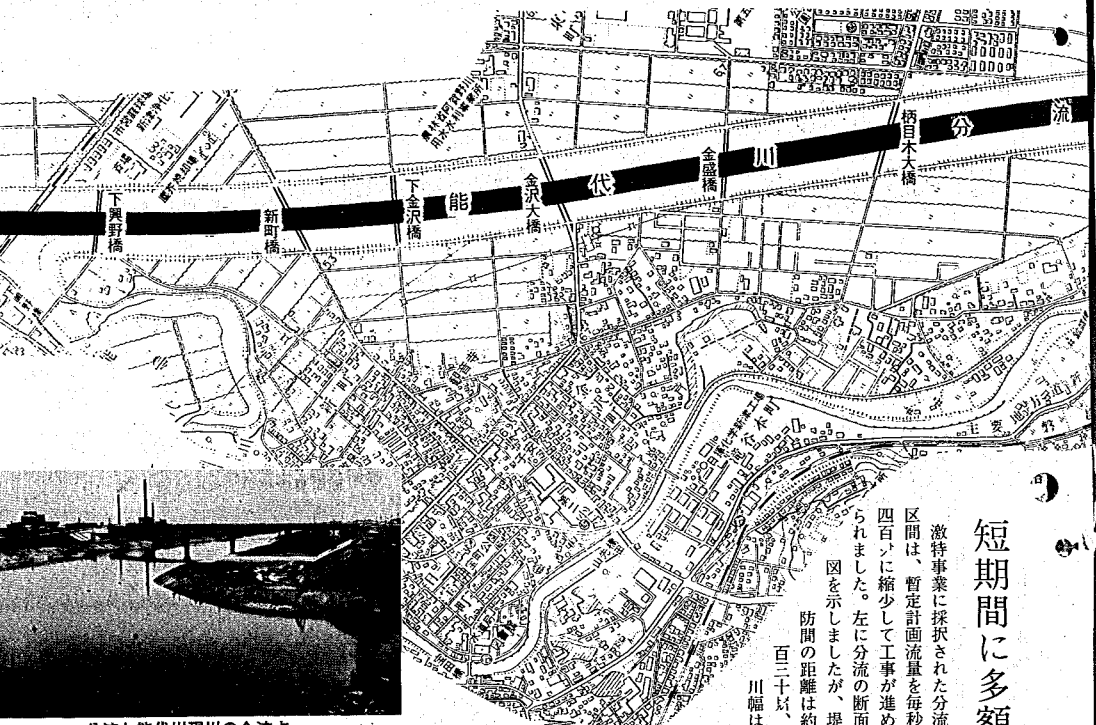
このような手詰り状態を打開したのは、皮肉にも再び当市を襲った五十三年の六・二六梅雨前線豪雨でした。この水害をきっかけに能代川改修事業が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択され、分流事業のスピードアップが図られたのです。


分流より下流の区間は毎秒800トンの断面で改修工事を実施

お買物、ご用命は市内で

らくらくクレジット3～20回払い!!
写真のよきパートナー
コダカメラ
新津市本町2丁目 ☎2-0583

≪エイゼン≫
住まいの修理専門
小さな事でもお気軽にご相談ください。
(塗装・板金・左官・その他の工事もやっております)
住宅管理維持サービス
くまくら ☎4-5994 (夜間兼用)
新津市善道町1丁目3－30



分流と能代川現川の合流点

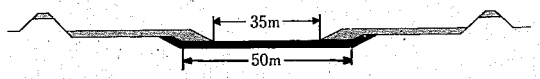
短期間に多額の資本を投下

激特事業に採択された分流区間は、暫定計画流量を毎秒四百トンに縮少して工事が進められました。左に分流の断面図を示しましたが、堤防間の距離は約百三十メートル、川幅は底水路(川床)の部分で三十五メートです。引き続いて高水敷を掘削し、底水路を五十メートに広げ、堤防を一・二メート高くし、計画流量を毎秒八百トンに引き上げる工事が進められます。そして最終的には、川床をさらに二メート掘り下げ、千二百トン流量が計画されています。

今回の暫定通水は、本計画からみれば、三分の一の流量にすぎません。しかし、用地買収や分流への架橋などは、将来の本通水に備えた規模で行われています。そのため、分流への投資額は、昭和四十五年の用地交渉開始以来、百六十三億五千六百万円にものぼっています。昭和二十二年以来の能代川改修の総事業費が約二百四十億円ですから、いかに短期間に多額の投資が行われたかがわかります。

ところで、分流は全く新しい川を大関地内から下興野地内へ掘ったわけです。その延長は四・六キロメートル。ですから、掘り取った土の量も莫大なものになりました。分流区間だけで七十七万二千立方メートル。それに、分流より下流の区間の改修工事で六十一万立方メートルです。このうち約半分は築堤に利用されましたが、残りの七十八万七千立方メートル(十一トン積みダンプカーで十三万一千台分)は、各種の土地造成などに有効に利用されました。その一つが、今年の四月に開校した阿賀小の敷地造成です。このほか、上の写真の真木野地区の農地開発や、新津工高裏に広がる流域下水道の終末処理場用地の造成、結地区の柿団地造成、それにかわったところでは、横越村役場の建設用地の造成にも利用されました。

能代川分流の断面図



毎秒800トン計画断面
毎秒1200トン計画断面

掘削残土で埋め立てた真木野地区

お買物、ご用命は市内で

公文式数学・国語教室
山谷町教室 ☎02502(2)2458
新津市山谷町一丁目 福王寺
小嶋 史

公文式数学・英語教室
滝谷町教室 ☎02502(4)1461
新津市滝谷町8－46
石川史子